

熊本県立球磨工業高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標						
1 ものづくりをとoshita人づくり - 社会的・職業的自立に向けた人格形成 - 次代の産業を担う「技と心と志」の育成 - 学力・工業技術力の向上と資格取得の推進						
2 部活動をとoshita人づくり - 生徒が主体的に行動し、心身健康で明るく活気ある学校雰囲気の醸成 - チャレンジ精神を持つ逞しく粘り強い生徒の育成 - 思いやりと感謝の心を持つ生徒の育成						
3 地域から信頼される人づくり - 基本的生活習慣の確立 コミュニケーション力（挨拶、礼節、笑顔）5S：整理、整頓、清掃、清潔、躰 - 地域貢献への積極的な参加 - 自尊感情と球磨工生としてのプライドの育成						
2 本年度の重点目標						
1 キャリア教育の充実 3年生全員の希望進路の達成 - 就職一次内定率の向上 1、2年生の目標進路の決定			4 各種大会・コンテストの上位入賞 - 資格検定試験の指導の充実 - 工業分野の研究の推進 - 各部活動の取組の充実			
2 学力向上と基礎学力の定着 - 研究授業等による授業力向上 - 授業における情報化推進 - 新学習指導要領への対応			5 地域との連携強化 - 地域貢献活動への取組 - 地域と連携した専門教育の実践 - 安全防災教育の充実			
3 教育の情報化推進 - ICT機器とネット環境の整備 - ICTを効果的に活用した授業実践 - ICTを活用した校務の効率化 - 学校からの広報・情報発信の充実			6 職員の健康管理と事故・不祥事防止 - 職員間の連携強化と業務見直し - 事故・不祥事ゼロの取組み			
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本年度の重点目標の周知	育友会活動、学校ホームページ（HP）や球磨工メール、学年及び学級通信等の充実	- 学校評価アンケートの重点目標を理解していると回答する保護者を85%以上とする - HPや球磨工メールを積極的に活用し、保護者へ学校行事、部活動情報等の発信する	- HPの積極的な更新 - HPと育友会新聞等の内容を更に充実 - 育友会新聞を学期に1回発行	A	- アンケートの結果85%の保護者は理解していると回答。しかし、昨年度より4ポイント低下。育友会活動が開催できない場合の周知方法に検討の余地がある。 - HPと球磨工メールを活用した積極的な情報の発信はできた。各種アンケートもSNSで回答収集ができた。
	地域連携の強化及び地域貢献	地域行事等への積極的な参加	- 生徒及び職員の地域ボランティアや行事等への積極的な参加 - 参加する生徒の言動や姿をとoshita本校の育成する生徒像を実感してもらう	- 地域行事等への積極的に参加を呼びかけ、工業各科の生徒作品展示等の協力により本校教育内容を周知 - 同窓会、育友会との連携を密にし、地域に貢献する	B	- 生徒会からボランティア募集案内を行い、積極的な参加を促した。 - 人吉東小「ほこすぎフェスタ」、くま川鉄道復興ツーリズム等に参加し、工業高校の特長を生かした協力活動を行うことができ、本校の魅力を発信できた。コロナ禍のため同窓会や育友会と連携した地域貢献はできなかった。
		開かれた学校づくりの推進	学校評価アンケートの体育大会や球磨工フェスタ等の行事について知っている回答する保護者を80%以上とする	- 実施内容の見直しや改善等、来校者数増加のための積極的取組 - HP等による学校行事等の情報提供	C	アンケート回答の結果67%と目標を大きく下回った。コロナ禍のため、体育大会は無観客で実施、球磨工フェスタは観客制限の措置での実施と、従来の形ではなかったことが要因と考えられる。
		業務改善並びに働き方改革推進と学	業務改善意識の醸成と職員間の連携	職員アンケートによる計画的な校務の工夫と超過勤務削減への取組で「できている」、「職場へ向かうことが楽しい」が満足度2.5点以上とする	- 業務の改善意見集約とやり甲斐のある職場環境づくり - 教科会及び部会、委員会等で、職員の帰属意識向上	B

	校活性化		・職員による業務改善の推進	・業務改革に向けた職員から情報収集と業務改善の検討と提案		くないと回答した20%を減少させるための職場環境づくりを推進しなければならない。 ・職員の業務実態を確実に把握し、すぐに改善策を講じる必要がある。
		部活動情報の周知と顧問の負担軽減	・部活動活動計画の周知徹底と試合結果や活動内容の情報発信 ・毎月の部活動練習と担当顧問の時間の効率化推進	・学校HPや安心メール等を活用した活動内容の積極的な情報発信 ・部活動指針による効率的練習計画を検討、策定し、生徒、保護者へ周知する	A	・部活動や各種コンテスト等の月毎の練習計画予定周知や試合結果の情報発信は、学校HPで積極的に速やかに行うことができた。 ・練習時間の効率化は進んできたが、部活動によっては検討の余地有り。
		入学希望者定員確保への更なる取組	・高校魅力化推進事業を活用した学校の魅力発信と中学生体験入学の内容充実	・学校紹介映像作成と配信 ・8月体験入学 ・10月中学校保護者向け説明会 ・11月球磨工フェスタ	B	・魅力化推進事業では、生徒デザインのクリアファイル・うちわ・マスクを製作、体験入学時に中学生に配付。保護者向け説明会では各科主任から学科紹介をしたため、より分かりやすい説明となった。
学力向上	授業の充実	主体的・対話的で深い学びの推進	・職員が相互に授業を参観する校内公開授業週間を年間2回実施する	・レポートにより、主体的・対話的で深い学びに関する指導方法を職員間で共有する	A	・それぞれの職員が試行錯誤している取り組みを、校内公開授業の相互評価によって指導法を共有した。
	指導力の向上	授業評価アンケートのデータ利用	・「球磨工業らしさ」を加味したアンケート項目へと再設定し、現状を把握・分析する	・アンケート結果を分析することで、クラスごとや科目ごとに傾向を把握し、指導方法改善の方向性を導出する	A	・授業評価アンケートで、クラスや科目の傾向を明らかにしてフィードバックすることで、授業改善やクラス運営の一助にできた。
	カリキュラム・マネジメント	新学習指導要領におけるカリキュラム編成の研究	・本校生徒の状況を振り返ることで、学校全体で育てたい資質・能力について、全職員で再検討する	・資質・能力の中で、学校全体で育てるものと、各教科で重点的に育てるものを職員間で共有することで、カリキュラム・マネジメントの一助とする	B	・学びや評価について職員研修で、思い込みがないよう基本となる考え方の共通理解できた。資質・能力はよく身につけていたため、各教科で育成する力との関係を吟味していきたい。
キャリア教育（進路指導）	希望進路の達成	就職、進学指導の充実	・進路決定率100% ・1次内定率95%（対前年1.3割）	・進路対策指導の充実（個別面談・就職試験対策・面接対策）	A	・進路は100%決定した。 ・1次内定率は97.2%と、高水準であった。
	キャリア教育の充実	目標進路の決定と人生観や社会性の育成	・豊かな人間性の育成と主体的な進路選択ができる能力を養う ・卒業後の人生設計を考えさせ、人生観、社会性を養う	・本校の進路指導に合ったキャリアサポートシステムの深化 ・職員研修による職員の資質の向上 ・全職員による進路指導 ・外部講師等による進路講話 ・就職適性検査や外部模試の結果の活用	A	・進路のしおりにキャリアパスポートを掲載したため、生徒も職員も見通しを持って計画的に取り組めた。昨年度から保護者の所感を生徒に伝達しており、生徒の励みになっている。 ・全職員が面接指導やインターンシップ指導ができた。 ・県内事業所経営者を招聘し県内就職や県内企業の魅力について講演会を開催。生徒の反応も良かった。 ・外部模試を経年比較し、指導要点を職員と共有した。就職試験における問題事例に関する研修を行った。
		県内就職を目指す生徒数の増加 県内就職の促進	・就職希望者における県内就職内定者28% ・インターンシップ 管外・管内：2年生 管内：1年生 ・工場見学会 ・企業説明会	・県内事業所との関係構築強化 ・県内事業所を知る機会の生徒・保護者への提供（熊本しごとコーディネーターやキャリアサポートスーパバイザーの活用）	B	・コロナ禍の中、事業所説明会や現場見学会、企業向けのインターンシップ事前説明会等を通して信頼関係は深まっている。 ・保護者参加可能な行事を計画したが、反応が鈍く、次年度への課題である。
生徒指導	健全な人間育成	基本的生活習慣の確立、礼儀、礼節の徹底、交通ルール、マナーの遵守	・アンケートの評価項目（職員・保護者役員の満足度）80%以上を目指す	・頭髪服装指導、自転車点検、公共交通機関乗車中のマナー、日常の指導 ・必要に応じて校外での登下校指導 ・各週集会での意識付け	B	・本校の生徒指導の方針については多くの生徒、保護者に理解を得られているが、校則の見直し等については随時検討が必要な状況である。
		校内美化に対する自発的態度の育成、生徒会活動の活発化	・アンケートによる職員や保護者の評価項目の基準値を75%とし、基準値以上とする ・学期に1回以上、各種委員会等で話し合いの場を設ける	・生徒指導部による適切な掃除計画、ISO係によるごみ分別の指導 ・美化コンクールの実施 ・行事前の美化作業の実施 ・委員会活動の活発化、行事の円滑な運営、達成感のある生徒総会の開催	B	・適切な掃除計画と定期的な美化コンテストにより、校内環境美化が徹底された。 ・昨年度は実施できなかった学校行事等を計画的に実施し、生徒会活動も活発に行えた。

	職員間で連携協力できる指導体制の充実	職員の共通理解と生徒指導体制の充実	・アンケートの評価項目で、職員や保護者の客観的評価を80%以上とする	・必要に応じた校内規定の見直し ・指導方針の周知、職員間の連携協力の強化、相談しやすい職場づくり ・若手職員への支援、育成 ・職員研修の実施	B	・複雑化する問題行動等について、その都度協議しよりよい指導を模索してきた。全職員の協力を得て生徒指導を実践できている。
		問題行動の未然防止と適切な対応・指導		・日常における注意喚起、正確な事実確認、事案発生の原因や背景の究明、事後指導を含めた適切な対応 ・言語環境の改善	B	・問題行動への対応等について、時代の実情に応じた変化が求められているが、全職員で課題を共有し意識を統一するためにはもう少し時間と努力を要する。
人権教育の推進	職員への啓発活動の強化及び人権教育の更なる推進	「同和」問題への理解を深める取組	・部落差別の現状やこれまでの国や県の解消に向けた取組等の歴史に関する正しい理解	・校外の研修会への積極的参加促進 ・人権教育推進委員会の活性化を図り、職員、生徒が同和問題を正しく理解するための情報の発信	B	・オンライン研修や拉致問題に関する講演会などに参加することができた。 ・人権教育推進委員会を定期的開催はできなかった。同和問題の職員研修は実施、生徒へ情報発信もできた。
		LGBT問題などの人権問題に対する啓発活動	・相手の立場に立って物事を考えられる生徒の「想像力」や「表現力」の育成	・月1回程度の「人権教育だより」の発行 ・全ての教育活動の中で自他共に人権に配慮する指導の徹底	B	・人権だよりを毎月1回程度発行することができた。 ・新たな人権課題等について学ぶことで指導方法を再確認することができた。
	学校生活全般における「命を大切にすること」を育む指導	よりよい人間関係を構築するための活動	・人権教育LHRでの人権感覚を高める取組を図る	・授業創造の実践や職員研修で指導力向上を図る ・生徒の日常の中に潜む課題を把握しキャリア教育につなげる	B	・人権教育の時点を持った授業創造について学ぶことができた。 ・人権教育LHRでSDGs教育を通じて身近な人権課題に気付く、学習することができた。
		「命の大切さ」を学ぶ取組	・自他の生命を大切にしてお互いに理解し合う集団づくりを実践する	・国語科や美術部等と協力し、人権標語や人権作品展へ応募する。 ・平和を願う強い気持ちを育み、一人一人の命の素晴らしさを実感させる。	B	・人権評語等に応募することができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策を通じて、命の大切さや相手への思いやりを学ぶことができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止・いじめの早期発見と解消	いじめの未然防止の取組	・情報モラルに関する指導の徹底 ・命を大切にすることの育成を図る啓発活動の実施	・情報モラルに関する講演会や研修会を実施するなど啓発活動に取り組む ・各教科による協力や生徒会、美術部等による呼びかけ、校内放送等での啓発を行う	B	・SNS絡みの問題行動について生徒指導部内期を適切に運用し、問題の早期発見と対応ができた。 ・いじめ防止の標語・ポスター等を授業で作成し、意識付けを行った。
		いじめの早期発見の取組	・いじめの兆候を見逃さない徹底した調査の実施	・職員による生徒の変化及び状況の把握 ・心のアンケートの実施（年3回） ・面談や聞き取り調査 ・家庭訪問の実施 ・「スクールサイン」の有効活用 ・いじめに対する積極的な認知	B	・心のアンケートだけでなく、生徒からの申し出で事案が発覚した。生徒との信頼関係により早期発見と解消に至った。 ・スクールサインは有用な手段になっていない。
		いじめの解消の取組	・認知したいじめの完全解消を目指す	・被害者、加害者、周囲の生徒に対する指導や対応を担任及び関係職員と連携して行う ・保護者に対する説明及び指導協力の要請	B	・加害者・被害者共に組織的かつ継続的に指導したが、現在も解消に向けて対応を行っている。 ・保護者とも密に連絡を取り合うことで協力体制を築けた。
	いじめ防止対策委員会の機能強化	いじめ防止等の取組の改善	・いじめ防止等の取組に関する評価とそれに基づいた改善の実施	・いじめ防止対策委員会メンバーの精選、取組の計画、実施、評価、改善 ・いじめに対する積極的な認知 ・いじめ解消に向けた取組の評価、改善	B	・毎学期「いじめ防止対策委員会」を開催し、学校内の現状について共有することができた。 ・いじり事案が発生した際には臨時で会議を開き速やかな対応ができた。
地域連携（コミュニティスクール等）	学校運営協議会等として、地域・関係機関との連携を深める	地域や関係機関と連携した本校教育活動における課題解消	・本校スクールミッション及び教育活動における年度目標の検証と課題 ・総合型コミュニティスクールの推進	・学校運営協議会を年に2回開催し、委員や関係機関と連携して学校における課題点等を確認・改善する ・防災型から総合型への移行に伴い、運営協議会では会の目的と取組みについて委員と関係者との共通理解を図る	B	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いた時期を見計らいながら、球磨工フェスタやものづくり教室等の地域との連携を深めることができた。 ・運営協議会の目的と取組について、共通理解を図ることができた。

		学校防災マニュアルの改善と地域や関係機関と連携した安全防災活動の実施	- 学校防災マニュアルの改善に向けた年間取組みの点検 - 年2回以上地域や関係機関、保護者等と連携した防災訓練や安全教育	- 関係者に防災訓練や安全教育への参加、助言等を依頼し、防災活動の質の向上を目指す - 様々な自然災害を想定した実践的防災訓練や安全教育の実施	A	- 令和3年4月に県から出されたくまもとマイタイムラインを使って、生徒の安全教育に関する知識を深められた。また、その取組の様子を外部に公開した。 - 避難経路確認、ブラインド型と、目的を明確にした防災訓練を年2回実施した。
特別支援教育	教育活動全般における支援と的確な進路実現へのサポート	学校生活で課題のある生徒を含めた生徒理解の促進 学校生活で課題を持つ生徒の的確な進路実現へのサポート	「球磨工シート」の5月中作成完了を目指す - 中学校からの「個別の支援計画」の引継ぎ率100%を目指す - 各学年との情報交換の機会を2倍以上に拡大を目指す	- 年度当初に生徒理解研修を実施（要支援生徒の一覧提示及びアセスメント期間を1ヶ月半設ける） - 中高連携シートの効果的な引継ぎ（新入生分をクラス毎に1冊にまとめ担任へ配布及び情報提供） - 各学年会（毎週）へ生徒相談部が参加する体制を確立し情報交換を図る	A	「球磨工シート」は5月中に作成完了。作成においては、保護者と連携して実施できたものの、外部専門家の参加については今後の課題。 - 引継いだ新入生の作成率100%達成。引継ぎ用冊子の作成及び配付も大変有用だった。 - 各学年との情報交換は、各学年窓口職員の設置と毎週の学年会に参加して、飛躍的に増加した。
			- 外部専門機関との連携（情報交換）の機会を1回以上の実施を目指す - 要支援生徒の就職1次試験受験率7人中5人を目指す	- 中高連携会議においてハローワーク等の外部専門機関を講師とした研修実施 - キャリアパスポート作成の充実。（教務部と連携し年間を通した計画的な実施体制の確立/自己理解を目的とした項目の新設）	A	- ハローワーク、就労支援センターと連携ができた。（中高連携会議で講師招待）医療機関やSCとの連携も進め、個々の生徒支援を最適化することができた。 - 要支援生徒の就職1次試験合格率は100%達成。教務部と連携したキャリアパスポートの年間計画の策定、『進路のしおり』への自己理解についての項目新設。1年生においては、気になる生徒を対象とした早期インターンシップを実施。特別支援教育と進路指導の連結を進めた。
工業教育の推進	ものづくりの充実	各種コンテストへの積極的な参加と成果	各種コンテストにおいて、県大会優勝、上位大会への進出・上位入賞を目指す	指導体制や指導方法を見直すとともに指導者の技術力の向上を図り、各種コンテストにおいて県大会優勝並びに上位コンテスト等での上位入賞を果たす	A	- 熊本県ものづくりコンテストでは出場全種目で入賞（うち旋盤作業及び家具工芸は九州大会出場）、家具工芸では九州大会で最優秀賞を獲得 - 熊本県生徒研究発表会（機械科）が熊本県工業連合会会長賞を受賞 - 全国大会レベルでの技術力を目指したい
		各種資格検定試験とジュニアマイスター認定	技能士、第3種電気主任施工管理技術検定等の国家資格の合格者数300名、ジュニアマイスター認定者数150名を目指す	- 資格等の精選ならびに効率的な指導を図り、計画的な指導のもと国家資格等の社会生活に有用な資格を取得する - ジュニアマイスター顕彰制度認定を活用し資格取得への意欲向上を図る	A	- 機械系の技能士（機械保全122人、金属処理62人）建築大工（2級3人、3級33人）土木施工管理（前期5人）であり、電気工事士や電気主任技士、土木及び建築施工管理は発表待ちではあるが目標の300人は達成できる見通し - ジュニアマイスターは前期申請で86人が認定され、後期71人申請中、合計158人で目標は達成できる予定。
		技術の伝承と技術力の向上	- 先輩教師による若手職員への技術の伝承と技術力の向上を目指す - 授業並びに関係各所との連携による学習により知識と技術の統合を目指す	- 先輩教師による若手教師へ技術指導に努め、技術伝承を図る - 授業で得た知識や技能を現場見学、インターンシップ等を通して統合化し、社会生活で生かしたいという意識を涵養する	B	- インターンシップ以外に建設会社（舗装実習）、熊本県及び国交省（現場体験学習）、熊本高専及び建築事務所（文化財建造物の保全）など関係各所との連携により知識の技術の統合化することができた - 先輩教師による技術指導は実践できたが技術力の向上までには至っていない
	地域貢献の充実	ものづくりによる地域貢献	- ものづくりを通して地域を果たす - 本校のものづくり教育の趣旨や方針、取り組み状況を伝える	- 産学官連携によるものづくり教育を実践する - 地域に積極的に関わり、ものづくりを通して地域への貢献を果たす - 情報発信に努め、ものづくりの状況を広くわかりやすく伝える	A	- 球磨川下り舟釘製作贈呈、モゾカタウン看板製作贈呈などものづくり教育を実践し地域貢献ができた - マスメディア並びに本校ホームページ、中学生体験入学等で県内ならびに管内に情報発信できた - Youtubeによる広報活動も検討したい

4 学校関係者評価

- 毎年、しっかりとした教育目標を立て、職員も実直に生徒に向き合い、学業のみならず、人間育成に取り組まれている。各種検定や技能大会、部活動を含め、それぞれの生徒がいろいろな形で自分を磨き、ボランティア活動等でも献身的に活動し、人間的にも成長されている。また、小学校への運動会の入・退場門設置や木工教室開催等たいへん感謝している。
- 教育目標から具体的目標の設定、それに基づく具体的取組が計画的、意図的に展開されており充実した教育活動が伺える。目指す生徒像（グラデュエーション・ポリシー）→そのための教育・学び（カリキュラム・ポリシー）→そのための人材確保（アドミッション・ポリシー）と分かりやすくまとめている。
- スクールミッション及びスクールポリシーについては、綱領をもとに専門性のある学校の特性を考え、やるべき課題・目標に取り組まれている。また、時代に沿った方向性をしっかり持って進めている。生徒の活動や生活の様子からもミッションやポリシーの具現化がなされており、とても素晴らしい。
- 各部の現状と課題では、具体的取組が行われていることが分かる。また、具体的データを基に振り返りながら取組が進められている。人材育成については、高校も中学校と同様の課題である。授業に前向きに取り組まれている。県内就職が増加していることは喜ばしく、希望する職種等については県内では難しいと思うが、地元企業の魅力を感じて就職するのは有り難い。スマホの使用は小学校でも問題で、情報モラルも含め、発達段階に応じた指導を継続的に行う必要がある。毎年、各部の課題を挙げ、その克服や解決に考えられている。PDCAサイクルが機能している。
- 今まで地域貢献は工業高校が一番と思っていたが、最近は様々な学校で取組まれており、少し影が薄く感じる。少し角度を変え、再考する必要があるのではないか。小・中学生へものづくりを指導することで、生徒自身にとっても役に立つため、そのような指導する機会を学校全体で設けたらよいのでは。生徒の学力差があるようなので、基礎学力に力を入れた指導をお願いしたい。
- 部活動は、コロナ禍で感染拡大防止策を取りながら頑張っている。練習や試合・大会等で制限が有り十分できないことが残念だが、やれる範囲で質を高めて頑張っている。適正な部活動が展開されていることが分かる。野球部や陸上部は頑張っているが、優勝するにはもう少しと感じる。もっと精神面の強化が必要ではないか。
- 学校評価については、健全な学校教育に取り組む中で、様々な角度から評価する自己評価の意義は大きい。評価Cについては、少しでも改善を心掛け、全体的なレベルアップと現状維持を期待したい。学校図書の利用については各自購入する場合もあり、利用が減少しているのではないか。読書を楽しむ習慣を付けさせ、名作に触れることが大切。
- 「学校に来ることが楽しい」「安心して生活できる場」と感じている生徒が多い。「自分の子どもを入学させて良かった」とほとんどの保護者が思うことは素晴らしい。進路に関する保護者との連携が一つの課題であると感じた。
- 毎朝・夕に生徒と見かけるが、とても落ち着いており、生活の充実と安定を感じる。多岐にわたる活躍を見聞きし、とてもうれしく思う。時代が変化し、多様化していく中、コロナ禍における生活が一変し、教育現場もたいへんと思うが生徒の学業と人間形成にこれからもよりよい指導を頑張りたい。
- 校外で見る生徒の姿は、とても落ち着いており、学校教育の充実が伺える。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、生徒と中学校との交流等ができればと思う。
- 新型コロナウイルス感染症がなかなか落ち着かない中、学校の教育活動も未経験の対応に本当にたいへんな年であったと推察できる。しかし、これも歴史的に貴重な体験と捉え、冷静かつ客観的な対応の学習経験の機会を整理し、将来に生かして欲しい。

5 総合評価

- 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染の状況によって学校行事の中止や延期、実施内容の変更等の措置を講じざるを得ないことも多く、担当者にとって通常案と対策案を常に考えなければならない状況が続き、負担増となった。今後も同じ状況が続くことが予想されるため、今年度の実施計画案を参考に更に状況に応じた対応案のブラッシュアップが必要。感染対策については十分浸透しており、日常化したようである。これからの「ウィズコロナ」時代、感染対策意識を緩めず徹底していかなければならない。
- 同様にコロナ禍で2年間育友会活動がほとんどできていない。そのため、学校教育目標や指導方針をはじめ本校での教育活動、さまざまな連携した活動等の周知は学校HPやメール、さらには学級通信や学年通信等も活用して発信しているが、残念ながらアンケート結果からも例年に比べ保護者の理解度は低下している。このことは早急な対策が必要と考える。
- この状況下であったが、生徒達はしっかりと目標に向かって必要な知識を学び、技術を身に付けながら成長しており、特に県高校生ものづくりコンテストにおいては出場した全部門で入賞を果たすなど素晴らしい成果となって現れた。
- 校則の見直しについて、タイトなスケジュールの中、生徒、保護者、職員のそれぞれの意見を出し合い、3者が指導基準をしっかりと理解し、納得した上で指導が実践されていく事を想定しながら協議を行い、実態に合った校則となった。

- 今年度の進路状況については、景気の動向に左右されることなく工業高校の強みとこれまでの企業や上級学校との良好な関係を生かした進路指導を行うことができている。そして、学年と進路指導部を中心に生徒へのきめ細かな指導を徹底した結果、例年以上に早期内定（一次合格率は97.2%昨年度93.7%）に繋げることができた。今年度の県内企業への就職率は昨年度26.6%には及ばなかったもの21.9%であった。公務員合格は国家一般・技術3人、海上及び陸上自衛隊13人、東京消防庁1人であった。
- 今年度導入された一人1台端末への対応もスムーズで、今後は授業での活用だけでなく、生徒の家庭での学習や様々な調査等に活用することで、効果的かつ効率的利用に繋げたい。
- 校内施設設備の老朽化への抜本的対応は難しいため、安全点検による項目の中から優先順位を決めながらの計画的対応と故障発生に伴う早急な処置で対応している状態であった。予算的な部分があるため、今後も同様の対応が続くことが予想されるが、生徒の安全安心な学習環境の確保に向けて県への要望も引き続き行っていく。

6 次年度への課題・改善方策

- 学力向上
新学習指導要領のスタートに伴い本校新教育課程実践と検証
- 生徒指導
見直した校則による指導実践と検証
- 人権教育の推進
人権感覚を高める効果的なLHRの実施にむけた職員の指導力向上
学校教育活動の中で「命を大切に作る心」を育む指導の構築
- 地域連携（コミュニティスクールなど）
開かれた学校づくりに向けた学校運営協議会活用と更なる地域連携
学校防災への意識高揚と地域や関係機関と連携した防災への対応
- 特別支援教育
要支援生徒への円滑で確実な引継ぎと個別支援にむけた保護者との情報共有
- 募集定員の確保
工業教育の魅力や取組と本校教育活動内容の更なる発信
- 業務改善への取組
職員の超過勤務時間削減に向けた職員意識の改善、計画的かつ効率的な更なる業務改善